



ウミガメ保護監視員
大池良一 代表

私たちの誇り 受け継ぐべき誇り

平成3年からウミガメ保護監視員として、21年間アカウミガメと向き合ってきた大池良一代表（新神子区）。

アカウミガメの保護にかける熱い思いを聞いた。

私が監視員を始めたころ、砂浜は100メートル以上ありました。今では、せいぜい20〜30メートル。かつての砂浜を取り戻そうと平成12年から堆砂垣たいさかきの設置を始めました。少しずつ効果が表れていますが、アカウミガメを取り巻く環境は、依然として厳しい状態です。

浜辺に散乱するゴミもカメにとつては大敵です。毎年、市内の小中学生やボランティア団体と海岸清掃をしますが、以前よりも使用済みレジ袋が減りました。買い物にマイバッグを持参するようになったからでしょうか。ビニール袋は、カメがクラゲと間違え

て食べ、死んでしまうことがあります。ビニール袋が減れば、多くのカメが救われます。2億年の歴史を持つ神秘的な生き物を、人間のエゴで死に追いやることなど、断じてあつてはなりません。

数年前にウミガメの産卵地で有名な徳島県美波町を訪れました。砂浜を見て驚きましたよ。全くゴミが落ちていないんです。地元の人に聞くと、ゴミ拾いのビニール袋が設置されていて、訪れた人は清掃して帰るといいます。カメの産卵場所を大切にすることが、まち全体に浸透していることがよくわかりました。

私たちのまちもそうなりたいですね。まずは、ゴミを捨てないでほしい。落ちているゴミを一つでも持ち帰ってほしいです。ウミガメが安心して産卵できる静かで美しい砂浜を維持し続けることができれば、もつとカメがまちの自慢にもなるし、誇りにもなると思うのです。子どもたちに、まちの魅力を受け継ぐことも私たちの役目です。みんな、郷土の宝を守り、育てていきたいらと思えます。

カメでまちおこしする徳島県美波町

「ウミガメとその産卵地」として国の天然記念物に指定されているもう1つのまち、徳島県美波町。同町には、世界的にも珍しい「うみがめ博物館」があり、ウミガメによるまちおこしの成功例として全国から注目されている。

おととしのNHK連続テレビ小説「ウェルかめ」の舞台にもなり、まちは大いに活気づいている。

美波町役場産業振興課の濱隆宏主査は「大勢の町民が海岸清掃などを通じて、まちの宝であるウミガメとその産卵地である大浜海岸を大切に守っています。カメは決して見せ物ではないので、自然な形で後世に残していきたいですね。ここに住む誰もが、美波を訪れる人にウミガメについて案内できるまちにしたいです」と話す。



日和佐うみがめ博物館カレッタ